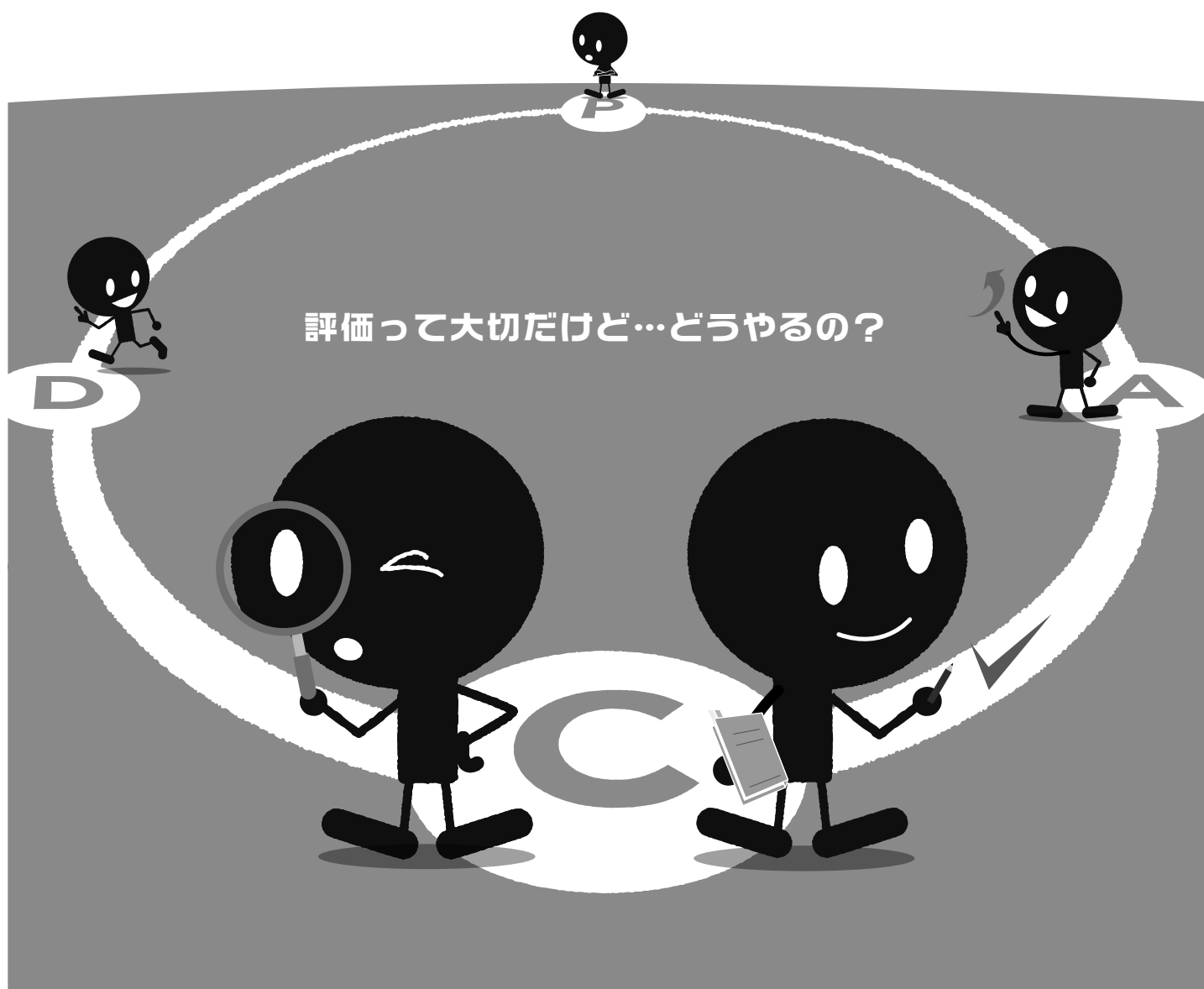


子供たちの「見取り」と教育活動の「点検」

～キャリア教育を一步進める評価～



“評価”に悩む先生方へ

キャリア教育を推進・充実させていく上で、評価はとても重要です。

ただ一口に評価といっても、評価には二つの側面があります。それは、子供たちの現状や学びの成果を把握する「見取り」と、見取りの結果や全般的な教育活動の実施状況を把握する「点検」です。「見取り」「点検」のいずれも重要であると感じている先生方は多いと思いますが、同時に、どのように進めれば良いか悩む先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

「授業で実践してみたけど、子供たちの変容をどう見取るといいの？」

「全校的に各学期、一年間を通して取り組んだが、活動がどのように点検すればいいんだ？」

国立教育政策研究所が行った「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」にも、先生方が“評価”に悩む姿が現れていました(P04,P08)。

そこで、本資料では、キャリア教育で進めるべき評価を、「見取り」と「点検」に分けて、それぞれ解説します。

本資料が、キャリア教育に取り組んできた先生方、取り組もうとしている先生方の役に立つよう願っています。

※キャリア教育とは……

「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことを指します。(中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日))。子供たちが将来、社会の中で自分の役割を果たし、自分らしい生き方を実現するための力を身に付けさせるべく日々の教育活動を展開することこそがキャリア教育です。

したがって、教育活動内にある、児童生徒のキャリア発達を促すのに有効な諸要素―学習内容や指導方法、生活・学習習慣、体験的な活動―を意図的に相互につなげながら、学校の教育活動全体に進められるものです。

このパンフレットは、キャリア教育に関する全国調査の結果に基づいて作成されています。

調査名称：キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査

実施時期：平成24年10月～11月

調査方法：各都道府県、政令指定都市において所管する公立学校からの抽出

調査協力：学校(小995校、中500校、高993校)、学級、ホームルーム担任(小1,681名、中950名、高1,978名)、

児童生徒(小14,179名、中4,235名、高4,660名)、保護者(小4,008名、中3,931名、高4,259名)、卒業生(中1,503名、高1,169名)に御協力を頂きました。

※本調査結果の詳細については、以下の2冊の報告書をお読みください。

第一次報告書：http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaiyouusa/careerreport.htm

第二次報告書：http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/career_jittaiyouusa/careerreport_2.htm

【このパンフレットの使い方】

必要なシーンに応じて、四つのパートを印刷し、研修等に御活用いただきたいと思います。

●見取り については、P04～07で解説します。

見取りとは…評価の対象を児童生徒に絞り、先生方が子供たちの現状や学びの成果を把握することです。

●点検 については、P08～11で解説します。

点検とは…評価の対象を学校全体に広げ、見取りの結果や全般的な教育活動の実施状況を把握することです。

●見取りと点検の関係性 については、P12～13で解説します。

●教育委員会 については、P14～15で解説します。

〈見取り・点検のパート事例の見方〉

ポイント

Point 2 児童生徒の実態を踏まえた評価規準・指標を設定する

2-1 2-2 具体的な見取りの項目を設定し、変容を見取る

～キャリア教育と教科や学校行事等との関連を明確にします～

例え「教科(社会科 地理的分野)」では

教科を通して身に付けさせたい力について指導計画内に具体的に表します。

キャリア教育の視点	能力の重点	社会科として身に付けさせたい能力・態度	学習指導要領との関連
夢を語る力 夢をかなえる力 (キャリアプランニング能力)	自分が果たすべき役割を理解し、主体的に実行する。	世界や身近な地域の地理的特色や地域の課題に対する関心を高め、それを意識的に追究し、変えようとしている。	世界の様々な地域の地理(1)エ ・身近な地域の地理(2)エ

各ポイントの理解を深めるための情報や、更新する情報へアクセスするための手掛かりを掲載の事例を通じて解説しています。

例え「職場体験活動」では

事前・活動中・事後のねらいを明確にします。

ねらい【事前】	ねらい【活動中】	ねらい【事後】
職業講話、職業調べ、職場訪問等の学習をもとに、社会人としての生き方や考え方に関心をもち、職場体験での目標を定める。	働く職業や生き方について、事業所の人々の考えを聞き、自らの考えを深める。 ・真なる意見や、考え方から他者の良さや自分の良さを問う。	職場体験活動の経験をもとに将来の進路に向けて主体的に学習を進めるとともに、自分の進路について考え選択できるようにする。



見取り

～子供たちの変容をどのように見取れ

ばよいでしょうか？～



先生方はキャリア教育の成果を見取る
重要性を感じている一方で、
具体的にどうしていけばよいかについて悩んでいます。

キャリア教育を進めていく上で、
先生方は成果を見取る重要性を感じています。

キャリア教育を適切に行っていく上で
「キャリア教育の成果に関する評価」を
「とても重要だと思う」「ある程度重要
だと思う」と答えた割合
(第一次報告書 P87, P154, P264)

	小学校	中学校	高等学校
	81.2%	84.9%	74.4%



重要性を感じる一方で、
先生方はキャリア教育の「評価の仕方」に悩んでいます。

先生方にとって「評価の仕方」は「キャリア教育を実施する十分な時間の確保」に次ぐ悩みとなっています。
学級等のキャリア教育について困ったり悩んだりしていること (第一次報告書 P86, P153, P262)

小学校		中学校		高等学校	
1位 (40.1%)	キャリア教育を実施する 十分な時間の確保	1位 (35.4%)	キャリア教育を実施する 十分な時間の確保	1位 (34.6%)	キャリア教育を実施する 十分な時間の確保
2位 (37.4%)	キャリア・カウンセリングの 内容・方法がわからない	2位 (34.9%)	キャリア教育の 計画・実施についての 評価の仕方がわからない	2位 (31.0%)	キャリア教育の 計画・実施についての 評価の仕方がわからない
3位 (33.2%)	キャリア教育の 計画・実施についての 評価の仕方がわからない	3位 (33.3%)	保護者のキャリア教育に対する 期待が進路先の選択や その合格可能性に偏っている	3位 (26.1%)	キャリア教育の 適切な教材が得られない
：	：	：	：	：	：
14位	：	18位	：	18位	：

どのようにしていけばよいでしょうか？



見取りを行う上で大切にしたいポイント

見取りを行う上で大切にしたいポイントを三つ示しました。さらに、ポイントごとににより具体化したものを例示しています。各学校の実状に応じて御参考にしてください。

Point 1

社会的・職業的自立に向けて身に付けさせたい力を明確にする

- 1-1 進学や就職といった短期的な目標に加えて、生涯にわたる長期的な見通しを持った上で、児童生徒に身に付けさせたい力を設定しましたか？
- 1-2 生活や社会、将来の観点から必要と考えられる知識、技能や態度を想定した上で、児童生徒に身に付けさせたい力を設定しましたか？

Point 2

児童生徒の実態を踏まえた評価規準・指標を設定する

- 2-1 児童生徒の実態を踏まえた上で、「目指す児童生徒の姿」を具体的に設定しましたか？
- 2-2 各取組の中で児童生徒の姿容・成長がどのように表れてくるかを想定し、その過程を捉えられるように指標を設定しましたか？

Point 3

身に付けさせたい力を児童生徒と共有する

- 3-1 身に付けさせたい力は、児童生徒にもわかる言葉で示していましたか？
- 3-2 身に付けさせたい力が、将来の生き方や進路決定にどのように結びつくか、伝えていましたか？
- 3-3 身に付いた力について、児童生徒に振り返りを促していましたか？



見取り ～参考になる見取りの事例には、どのよ

うなものがありますか？～

Point 1

社会的・職業的自立に向けて身に付けさせたい力を明確にする

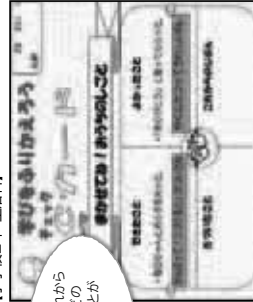
1-2 学んだことを生活や社会につなげて見取る

～高槻市立第四中学校区の事例を元に作成～

児童生徒の学びを生活や社会と関連付けながら捉えます。例えば、学習シートの中に、生活や社会へつなげる項目を入れる工夫が可能です。各教科での知識・技能を児童生徒はどのように生活や社会に関連していると理解しているのかを見取ることができます。

児童生徒も、今学んでいることが生活や夢をかなえることにも役立つことを実感できます。

【小学校2年・生活科】



【中学校1年・社会】



「〇〇を学んだから生かしたい」「これから学んでいきたい」などの気持ちも意識したいことが大事なんだね。

「こんな力が付いたね！100にもつながっているよ！」などの言葉かけができるというね。



Point2

児童生徒の実態を踏まえた評価規準・指標を設定する

2-1 キャリア教育の授業で、到達目標を児童生徒と共有して見取る

～私立立命館宇治高等学校「CSL(キャリア・サービス・ラーニング)」の例～

立命館宇治高等学校では、1年生におけるキャリア教育の中核となる時間として「CSL」を設け、生徒の社会貢献を組み入れたキャリアデザイン授業を展開しています。

シラバスに「到達目標」「評価の観点」「評価の方法」などを明記し、自校の生徒実態をふまえた目標や評価の在り方を生徒と共有しています。年度末には口頭試験(面接試験)で到達点を確認しています。

到達目標	①人とのかかわり、自己コントロールなどの基礎力を伸ばし、自分や周りの人の成長・進み、社会に貢献する。②自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。③社会で働く機会に恵まれる。④自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。⑤自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。
評価の観点	①キャリアデザイン ・自分に対する見方が広がる。 ・自分の将来を考えた、それを様々な方法で人に表現できる。 ・社会で働く機会に恵まれる。②自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。③自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。④自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。⑤自己コントロール能力を高め、自分から一歩を踏み出せる人になる。
評価方法	ポートフォリオ評価 授業で学習レポート、ポートフォリオ活動など学びの成果をまとめたものを授業時に評価する。年度末には自分自身で評価。②口頭試験面接 ③社会貢献活動実践の3つの条件をクリアすることが単位認定の条件である。

Point 3

身に付けさせたい力を児童生徒と共有する

3-3 児童生徒の自己評価を通して見取る

～三重県立津高等学校「しごと密着体験」(ジョブシャドウイング)の例～

津高等学校では、「しごと密着体験」を通して、郷土愛を育成し、広い視野と高い志をもって自らの進路を切り開く力を付けています。

事前指導と事後指導の間での変化を生徒に自身で振り返らせ、自己評価させることで、生徒の内面的変化をより見取りやすくしています。

※仕事をしている人に影のように密着し、仕事をしている人や職場の様子を観察する。

体験前の自身の現状を生徒に把握させる

○ジョブシャドウイングで観察したいポイントを明確にさせる。

○観察したいポイントをほかの生徒とも共有し、自他の違いなどを学ぶよう促す。

体験前後での変化を生徒に振り返らせる

○観察したいポイントに関する事前のイメージが、体験後にどう変わったかをいかにさせる。

○自分の中の気持ちを言葉にさせ、可視化する。

振り返りの内容の中でも、特に主観的な側面に注目して変化を見取る

○様々な気づきを得ている中で、前向きなものを捉える。

○アンケートなども併用し、数量的な変化も把握して、多面的に生徒の変化を捉える。

○今後どうしていきたいかを生徒に言葉させ、生徒の興味・関心の変化を把握して、キャリア・カウセンリングに活用する。

その取組を通じて児童生徒に身に付けさせたい力を意識させるよう質問項目を工夫して感想を書かせると、児童生徒の変化を見取りやすくなります。

児童生徒の感想へのコメントにも、身に付けさせたい力を踏まえた内容を盛り込みましょう。



3-1 3-3 掲示物等を活用し、児童生徒の変容の過程を見取る

～京都市立梅小路小学校の事例～

ふだんから作成する掲示物等を活用することで、児童の成長を見取ることができま。例えば、各教育活動の後に作る掲示物に「身に付けさせたい力」を盛り込む工夫をすると、貼られていく掲示物に児童の成長の過程を見取ることができま。ほかに、児童の自己評価をグラフ化することも有効です。掲示物の内容を工夫することで、各教育活動が児童の成長をどのように促したかを見取りやすくなります。児童も自己やクラスの成長の過程を実感できます。

低学年	成長をクラスのみで確認する	中学年	成長を四つの力から確認する	高学年	成長を自分自身で確認する
<p>クラス 掲示</p>  <p>クラス 掲示</p>	<p>クラス 掲示</p>  <p>クラス 掲示</p>	<p>クラス 掲示</p>  <p>クラス 掲示</p>	<p>個人 ポート</p>  <p>個人 ポート</p>		



点検

～学校教育全体の改善につなげていくため

に、どのように取組を点検していけばよいでしょうか？



取組を点検することの重要性は各学校に浸透してきていますが、
点検を計画立案の際に重視していたり、そもそも全体計画に
位置付けたりしている学校はまだ多くありません。

学校でキャリア教育を適切に行っていく上で、
取組の改善につながるよう点検することの重要性は浸透してきています。

取組の改善につながる評価を実施することを
「とても重要だと思う」「ある程度重要だと思う」と
答えた割合(第一次報告書P75, P138, P245)

小学校	中学校	高等学校
93.5%	96.0%	93.4%



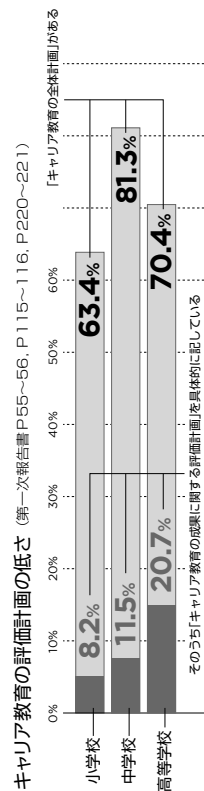
しかし
取組の改善につながる点検を重視する学校は、
まだまだ少ないのが現状です。

キャリア教育の計画を立てる上で、
取組の改善につながる評価を実施する
ことを「重視した」と答えた割合
(第一次報告書P60, P120, P225)

小学校	中学校	高等学校
7.4%	13.7%	16.6%



そもそも
キャリア教育の成果について点検することを
全体計画内に組み込んでいる学校は多くありません。



どのようにしていけばよいでしょうか？



点検を行う上で大切にしたいポイント

点検を行う上で大切にしたいポイントを三つ示しました。さらに、ポイントごとに具体化したものを例示しています。各学校の状況に応じて御参考にご覧ください。

Point 1 組織の視点から：実践を継続的に進められる体制をつくる

- 1-1 全教職員で、キャリア教育を通して児童生徒に身に付けさせたい力を共有したか？
- 1-2 各取組が、学級・ホームルームや学年を越えて、相互に関連付けられているか？
- 1-3 取組を進める上で、各教職員に求める負担が過剰になっていないか？

Point 2 指導計画の視点から：目標、計画、実践の一貫性を確認する

- 2-1 身に付けさせたい力と、各教科での学習や体験活動等との関連が指導計画内に具体的に示されているか？
- 2-2 目標の達成について、検証可能な計画になっているか？

Point 3 連携の視点から：キャリア教育の充実につながる関係をつくる

- 3-1 キャリア教育のねらいや身に付けさせたい力などを関係者と共有しているか？
- 3-2 体験活動等に対する地域・保護者の理解と協力が得られているか？
- 3-3 地域組織や企業・事業所との連携を図っているか？

改善案

例えば、上記のポイントを踏まえた改善で、始めやすいものとして下記が考えられます。

- キャリア教育のリーダーを中心とした研究・研修の推進 1-1 1-2
- 取組のスクラップ・アンド・ビルド 1-3
- アンケートを生かし、キャリア教育の現点を明確にした指導計画の作成 2-1
- 保護者・地域・事業所等と恒常的に意見交換するための仕組みづくり 3-1 3-2 3-3



点検 ～参考になる点検の事例には、どのような

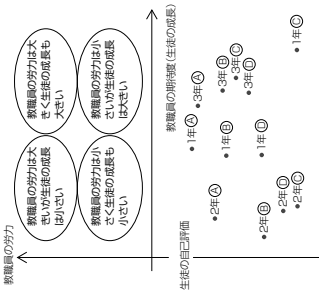
ものがありますか？～

Point 1 組織の点検 組織の視点から：実践を継続的に進められる体制をつくる

1-1 児童生徒の自己評価と教職員の意識調査を組み合わせる

～秋田県立由利高等学校の例～

由利高等学校では、生徒の自己評価と教職員の意識調査を組み合わせ、教職員の共通意識の醸成につなげ、取組の見直しと改善を図っています。



Point 2 指導計画の点検 指導計画の視点から：目標、計画、実践の一貫性を確認する

2-1 重点目標に関するアンケートを実施し、指導計画・授業づくりにつなげる

～複数学校の事例を元に作成～

1 年度末アンケート調査の結果を分析する。

計画時に重点を置いていたポイントについてアンケートを行います。例えば、
 □授業を通して、身に付けさせたい力を生徒は身に付けたか？
 □体験活動の事前・事後指導は意図する効果を上げたか？
 □キャリア教育の事前・事後指導の内容の検討

2 改善点の洗い出し作業と集約作業を進める。

分析の結果、十分な成果を得られていないことがわかったら、例えば、
 □キャリア教育の事前・事後指導の内容の検討
 □体験活動の事前・事後指導の内容の検討
 などが改善点であることの共通理解を図ります。

3 改善へ向けた具体的な方策

教科部会	校内研修会	授業研究会
年間指導計画とキャリア教育の視点との関連を再考する。	ワークショップ型研修を通して、基礎的・汎用的能力の育成のねらいを絞り込む。	事前・事後指導のねらい(P03参照)を明確に表せるよう発問の在り方を見直す。

などの取組を次年度に向けて準備します。

*アンケートでつづかった課題は、年度内に共通理解を図り具体的な対策の立案を行います。



Point 3 連携の点検 連携の視点から：キャリア教育の充実につながる関係をつくる

3-1 ねらいや見取り、点検の結果を地域組織と共有し、改善につなげる

～複数学校の事例を元に作成～

年度初めに、キャリア教育の全体像・計画とねらいを地域や保護者に伝え、活動に理解と協力を求めます。点検の中でねらいに即して見取りと点検を行います。こうして把握した現状を地域や保護者と共有し、次年度の活動に向けての改善を協力して行います。



年度初めに、共有しておきたいことを地域や保護者に分かりやすく伝え「目指す児童生徒の姿」の共通理解を図れていると、充実したフィードバックが得やすくなるんだね。

*キャリア教育の活動(特に体験活動)のねらいや成果を、地域や保護者と共有し、様々な側面から協力を得ながら、取組の改善を図っていきましょう。

3-2 地域の企業や保護者と恒常的な意見交換の機会を設ける

～三重県立桑名工業高等学校の例～

桑名工業高等学校では、デュアルシステム® やインターンシップを教育活動の中心に据え、企業・学校・生徒の間で恒常的に情報や意見が交わられています。保護者の集まりである「親の会」も加わり、それぞれの立場からフィードバックがなされています。教員の見取りの結果に加えて、寄せられる情報や意見をうけた活動の点検結果を、改善につなげています。

※地域企業と学校の連携のもと、企業実習と学校教育を組み合わせて実施し、生徒を一人前の職業人に育てる仕組みのこと。

地元の大人が参画するデュアルシステム・インターンシップ

- 地元商工会議所とタイアップ。
- 生徒に企業の担当者につき、毎週1回・終日・通年で取り組む。
- 生徒の振り返りに対して、企業の担当者・保護者・担当教員がコメントする。
- 生徒はコメントを受けて次の実習へのアクションプランを立てる。

生徒・教職員と地元の大人(企業関係者・保護者など)が情報交換する機会の活用

- 保護者によるオフサイトミーティング(「親の会」)を毎月開催し、フィードバックを得る。
- 教職員が生徒の様子確認のために実習先を回る際、実習先の意見も聞き、恒常的な意見交換の場にする。
- 「成果発表会」では、恒常的に収集していた情報とは異なる観点からの意見をもらい、様々な側面の意見や情報を踏まえて改善につなげる。



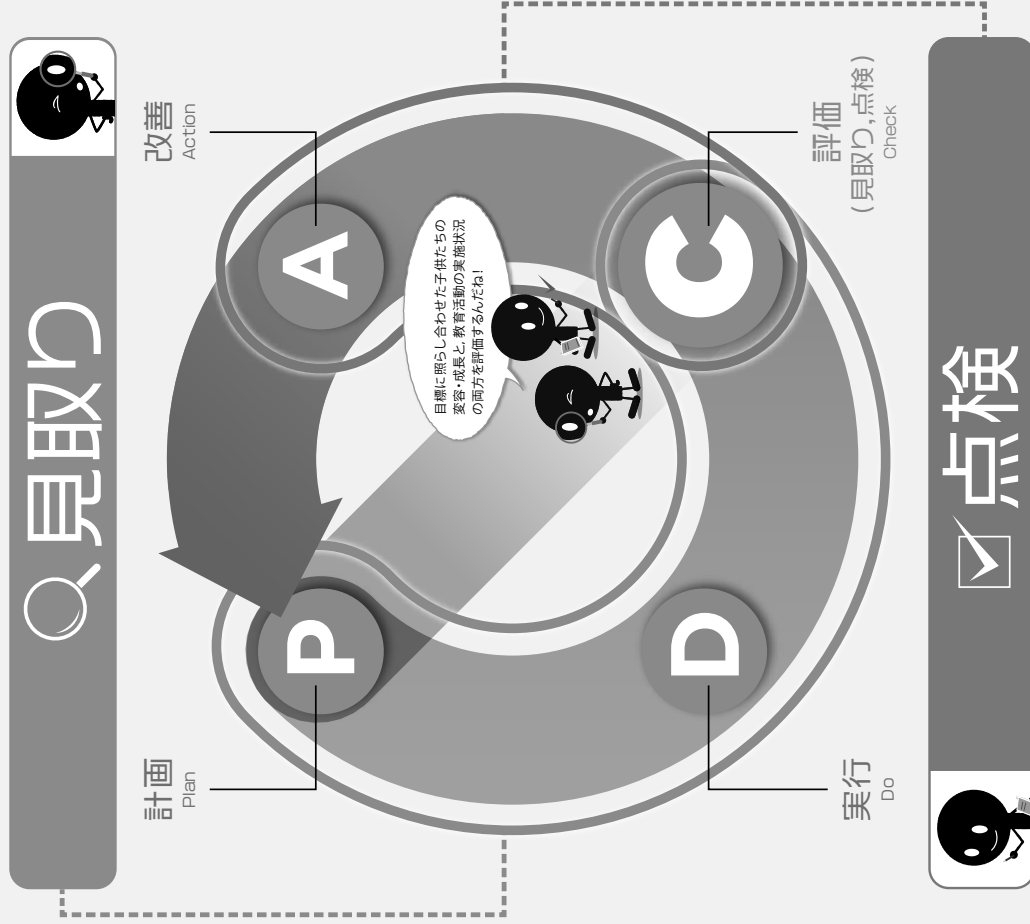
生の声によるフィードバックが改善につながっているんだね。

見取りと点検の関係性 ～キャリア教育の～

充実に向かう軌

見取りと点検は重なりを持っています

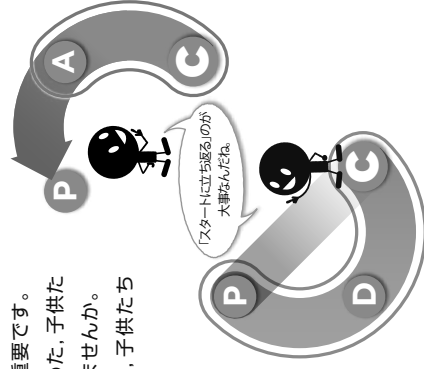
子供たちが必要な力を身に付けられたのかを把握すること、そして、全校的な教育活動の状況を把握することは、いずれもなくてはならないものです。次の取組を改善するためには見取りも点検もどちらも欠かせません。



評価(見取り,点検)のカギは「スタートに立ち返る」-目標・計画にありまち

先生方が目指した目標や計画に立ち返ることが重要です。見取りの際に、先生方が立てた計画において決めた、子供たち身に付けさせたい力を意識することから始めませんか。教育活動の点検の際にも、計画に照らしながら、子供たちに力を身に付けさせるのに役立つ活動とあったかを意識しながら情報収集することから始めませんか。

目標・計画に常に立ち返り、見取りと点検を地道に行い、改善した上で、次の計画を充実させていくことこそが、教育におけるPDCA（検証改善）サイクルの推進にほかなりません。



見取りと点検を生かすカギは「スピード感」にあります

PDCAサイクルには中・長期的なものとは短期的なものがあるのは当然です。例えるなら、三年間を見据えたサイクルと、ある学校行事の期間で見取りと点検を行うものということです。

見取りの結果は、一年後の計画にのみ反映すればよい、来年の学校行事にのみ反映すればよいということではありません。見取りの結果は、現在進められている指導計画を修正するのに即時に生かされなくてはなりません。子供たちの声は、今準備が進んでいる学校行事に、来月の行事に、スピード感を持って生かしていくことが重要になってきます。

子供たちが自分らしい生き方を実現するために、PDCAサイクルを回す力は不可欠となるでしょう。であれば、これまで解説してきたような、PDCAサイクルを意識できている学校・見取りと点検がすぐに改善に生かされる学校で生活したかは、基礎的・汎用的能力の育成に影響を与えることは想像に難くないでしょう。

この資料が、先生方の悩みを解消するきっかけになることを願っています。

学校や先生方を支える教育委員会

キャリア教育に実際に取り組むのは学校や先生方ですが、キャリア教育の推進・充実を目指す上で、学校の設置者にしか果たせない役割も多々あります。このページでは、教育委員会ができることについて解説します。

キャリア教育の推進には、児童生徒に関わる教職員の意識・指導力の向上が重要です。

キャリア教育に関する研修等に積極的に参加し、自己の指導力の向上に努めていると回答した教員は多くありません
(第一次報告書P83, P148, P256)

小学校 6.5%

中学校 8.4%

高等学校 11.7%

【高知県宿毛市教育委員会では】

教育研究所にキャリア教育専任研究員を配置し、キャリア教育通信「希望の職」を定期的に発行しています。通信には、目指す子供像や指導計画、評価の方法などのモデルを掲載し、市内の教職員に配布して、キャリア教育を推進しています。



【宮城県仙台市教育委員会では】

各学校の要請に応じ、キャリア教育担当指導主事を派遣し、講話や年間指導計画作成のワークショップなどを行う、「自分づくりサポート」を実施しています。



保護者や地域、外部団体との連携を図ることは重要だと捉えられています (第一次報告書P75, P138, P245)

小学校

97.2%

中学校

97.8%

高等学校

95.0%

【兵庫県教育委員会では】

兵庫県教育委員会では、関係団体で構成された県推進協議会が協力依頼するとともに、市町の推進体制、事業所等への依頼文例等を掲載した指導の手引を、市町教育委員会へ示しています。これを受けて、例えば、姫路市教育委員会では、市の「トライやる・ウィーク」推進協議会の在り方を見直し活性化を図るとともに、関係団体や市長部局との連携を強め、社会体験活動の充実につなげています。



～ キャリア教育を推進するための環境づくりはできていますか？ ～

果たせない役割も多々あります。このページでは、教育委員会ができることについて解説します。

キャリア教育の意義や効果は伝わるように働きかけよう!



キャリア教育における教職員の資質向上につながる支援ができていますか確認しましょう。

点検

- ☐ 通信等を活用するなど、キャリア教育について共通理解するための取組がなされているか。
- ☐ 子供たちに身に付けさせたい力を小中学校が連携して設定しているか。
- ☐ 子供たちが自己評価できる仕組みをつくっているか。
- ☐ 各学校へキャリア教育推進についての情報提供ができていますか。

具体的な施策の改善を図りましょう。

改善

- 設置者としてのキャリア教育の指針や推進方法の提示
- 小中学校の教職員による合同の研究協議などの開催
- キャリアノートや振り返りカード等の活用
- モデル校の授業プランや実践事例などを定期的に通信等で発信

- ☐ 管理職や教員へのキャリア教育に関する研修は設定されているか。
- ☐ 学校全体で計画的に取り組んでいるか。
- ☐ キャリア教育推進のための校内体制作りが進んでいるか。
- ☐ キャリア教育に関する校内研修が実施されているか。

- キャリア教育の認識を高める管理職研修の実施
- 各校のニーズを把握し、実効性の高い研修の実施
- キャリア教育担当指導主事の配置と支援事業の実施
- 体験活動のねらいを達成するための事前・事後指導プログラムの作成

それぞれの果たす役割をお互いを知ることで大切だね!



「働くことの意義」、「社会の担い手としての役割の理解」を伝えるためには、学校が家庭、地域社会や産業界と連携・協働することが重要です。

家庭、地域社会や産業界等との連携・協働ができていますか確認しましょう。

点検

- ☐ キャリア教育に関する関係機関による協議の機会はあるか。
- ☐ 外部人材と連携したキャリア教育が実施できているか。
- ☐ 職場体験、インターンシップ等の受入先は確保できているか。
- ☐ 受入先等との共通理解が図れているか。
- ☐ キャリア教育についての情報発信ができていますか。

具体的な施策の改善を図りましょう。

改善

- キャリア教育を支援するための教育界、首長部局、産業界等が一体となった協議会の設置
- 学校が利用しやすい形で外部人材情報の提供
- 公立施設等の受入先一覧の作成・配布
- 受入事業所の開拓や事業所対象の受入説明会の開催
- キャリア教育の成果等を広報誌やウェブサイト等で地域社会へ積極的に発信

多様な側面から子供たちの学びを捉える

子供たちは、日々の様々な経験を通して、変容、成長しています。子供たちの学びを評価するためには、学習経験や活動を記録し、まとめることが有効です。このように記録を一元化したものをポートフォリオと言います。ポートフォリオに蓄積された子供たちの活動記録や気付き、感想は、先生方が子供たちを見取るための重要な資料になります。

見取りを丁寧に進めるためにも、日々使う学習シートへの工夫は重要です。例えば「ねらい、活動、評価、改善(新たな課題)」の各要素を学習シートに盛り込んだり、学習の際にPDCAの段階ごとのワークシートを活用したりという工夫を行っている事例もあります。

このようなシートなどの記録を蓄積していくと、先生方がねらいと活動を照らし合わせて評価しやすいだけでなく、子供たちも自身が成長したことを実感し、更なる学びを促す絶好の資料となります。

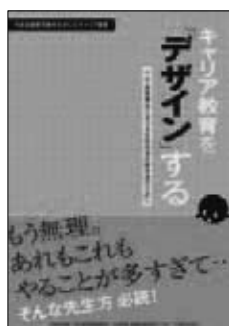
ポートフォリオは学校段階を越えて活用されるとより有効です。例えば、小学校から高等学校までの12年間をつなぐポートフォリオを「キャリアノート」と称して活用しているところもあります。子供たちが自身の成長の過程(つながり)を振り返ることができるようになるだけでなく、先生方も学年や校種を越えても継続した指導を行いやすくなります。

より良い実践のために

より良い実践のために、これまでに発行された、本資料とも関わりが深いパンフレット類も御活用ください。本資料及び、下記のパンフレットは国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターウェブサイトからダウンロードが可能です。URLは本ページ下段にある〈編集・発行〉欄を御覧ください。



キャリア教育を創る
「学校の特色を生かして実践するキャリア教育」
小・中・高等学校における基礎的・汎用的能力の育成のために
平成23年11月



キャリア教育をデザインする
「今ある教育活動を生かしたキャリア教育」
一小・中・高等学校における年間指導計画作成のために
平成24年8月



「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」パンフレット
一学習意欲の向上を促すキャリア教育について
平成26年3月

【作成協力委員】

※職名は平成26年10月現在

上村 和弘 三重県教育委員会事務局教育総務課教育改革班主幹
大場 康之 青森県板柳町立板柳中学校教諭
反町 京子 千葉市教育センター非常勤嘱託職員
田野 早苗 京都市立梅小路小学校教諭
新妻 英敏 仙台市教育局学校教育部学びの連携推進室主任指導主事

西田健次郎 兵庫県教育委員会義務教育課副課長兼初等・中学校教育班長
藤田 晃之 筑波大学人間系教授
藤原 孝一 秋田県教育委員会高校教育課指導主事
望月 由起 お茶の水女子大学学生・キャリア支援センター准教授
山本佐和子 大阪府高槻市教育委員会指導主事

(敬称略 五十音順)

【事務局】

頼本 維樹 生徒指導・進路指導研究センター長
人見 達也 生徒指導・進路指導研究センター企画課長
長田 徹 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官
滝 充 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官
中野 澄 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官
藤平 敦 生徒指導・進路指導研究センター総括研究官

篠原 郁子 生徒指導・進路指導研究センター主任研究官
立石 慎治 生徒指導・進路指導研究センター研究員
小野 憲 生徒指導・進路指導研究センター特別調査員
田中 曜子 生徒指導・進路指導研究センター企画課指導係長(～H26.9)
木村香奈子 生徒指導・進路指導研究センター企画課指導係主任



文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

〈編集・発行〉生徒指導・進路指導研究センター 平成27年3月
TEL : 03-6733-6882 FAX : 03-6733-6967
URL : http://www.nier.go.jp/O4_kenkyu_annai/div09-shido.html